

在宅看護技術論

必修

開講年次：3年次前期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：在宅療養者と家族に必要な基本的看護技術について理解し、効果的な在宅看護を展開するための技術を学生自らが主体的に習得し、実践につなげていく。

■**到達目標**：①在宅の生活援助技術と医療管理技術について、在宅療養者の特性を踏まえて説明できる。
②基本的な在宅看護技術について、根拠および実施方法を説明できる。
③基本的な在宅看護技術を習得する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎御厩 美登里・菊地 ひろみ

■**授業計画・内容**：

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 在宅における食の援助と排泄ケア
- 第3回 在宅におけるリハビリテーション
- 第4回 在宅における環境・移動・安全：住環境整備／転倒予防
- 第5回 在宅における清潔ケア（1）：入浴／清拭／部分浴／整容
- 第6回 在宅における清潔ケア（2）：技術演習
- 第7回 在宅における薬物療法（1）：服薬管理／疼痛管理／血糖測定・インシュリン自己注射
- 第8回 在宅における薬物療法（2）：技術演習
- 第9回 在宅における呼吸ケア（1）：在宅人工呼吸療法／在宅酸素療法／気管内吸引
- 第10回 在宅における呼吸ケア（2）：技術演習
- 第11回 在宅における栄養ケア（1）：在宅経管栄養法／在宅中心静脈栄養法
- 第12回 在宅における栄養ケア（2）：技術演習
- 第13回 在宅における感染管理・リスクマネジメント
- 第14回 訪問看護の基本的態度と面接技術：訪問時のマナーと面接技術／訪問看護の倫理
- 第15回 在宅訪問時の基本的態度と面接技術（演習）

※単元の順序は変更することがある

■**教科書**：『在宅看護学講座』 スーディ神崎和代他編（ナカニシヤ出版）
『写真でわかる訪問看護 訪問看護の世界を写真で学ぶ』／押川眞喜子監修（インターメディカ）

■**参考文献**：『Nursing Mook3 スキルアップのための在宅看護マニュアル』／角田直枝編（学習研究社）
『よくわかる在宅看護』角田直枝編（学研メディカル秀潤社）
『在宅療養指導とナーシングケア-退院から在宅まで 1～6』／宮崎歌代子他編（医歯薬出版）

■**成績評価基準と方法**：定期試験（60%）、提出物（20%）小テスト（20%）、および授業態度を参考として総合的に評価する。総合評価が60%未満の場合は再試験の対象となる。小テストは、單元ごとの内容を次回講義のはじめに実施する。2/3以上の出席を満たさない場合は評価の対象としない。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	○	内容の理解	60
提出物	◎	◎	◎	記述内容の適切性、妥当な記述量	20
小テスト	◎	◎	◎	單元ごとに実施し、点数を積算する	20
授業態度	○	○	○	講義・演習への取り組み姿勢	評価の参考
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：在宅看護学概論、在宅看護援助論、在宅看護学臨地実習

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：医療依存度の高い在宅療養者増加に伴い、生活援助技術と医療管理技術の双方が、在宅看護に求められています。演習は、「在宅看護学臨地実習」などで経験するであろう在宅看護援助技術の中から、特に重要な項目を中心に構成しています。グループワーク主体とした演習を展開しますので、個々の参加度が課題達成に大きく影響します。皆さんの能動的・主体的な取り組みを期待します。